

《きっずぽけっとミニ通信 NO.44

2009年3月発行

ひな祭りと並んで、3月3日は“みみ”の語呂合わせから『耳の日』であることもよく知られています。

耳の仕事はきくこと。

“きく”には…

「訊く」⇒質問する。たずねて答えを求める。問いただす。

「聞く」⇒音声を自然に感じる。

「聴く」⇒相手の心の声にまで耳を傾ける。

という3つの異なる表現があります。

子どもの話をどのようにきいていますか。読売新聞に掲載された心療内科医による記事の抜粋文を載せてみました。

【 子どもの話をじっくりきいていますか？ 】

親子のコミュニケーションの現状を見たときに、相談に来る人（親）の共通点は、子どもの頃の親子関係が根っこにある事が多い。「親に受け入れてもらえなかった」「自分が望んでいない進路に進んだ」…等。

私達の子どもの頃とは社会環境も家庭環境も変わり、今は親と接する時間が少なくなっているのは事実です。仕事や家事に追われ、子どもの話を聞いてあげる時間が少なくなっています。子どもは話を聞いてもらってほしいと不満を覚え、やがて話そうとしなくなり、親子が互いを理解しなくなるきっかけになってしまうのです。

例えば、子どもが学校から帰って来て親に話しかけても、台所で家事をしながら聞き流す親が多いのでは？また「大きくなったらサッカー選手になりたい」と言う子どもに「この前は宇宙飛行士だったじゃない」とからかって、話を遮った事はないでしょうか？